

# 漁場モニタリングの高度化と適地選定のスマート化による持続可能な沖合養殖業の推進

代表機関：株式会社グリーン&ライフ・イノベーション  
共同研究機関：北海道大学、日東製網株式会社  
実施年度：2021年度～2022年度（フェーズ0）  
キーワード：漁業、水産増殖、水産工学

浮沈式生簀の実用化により、従来は養殖に不向きとされていた波浪や潮流などの厳しい海域でも、大規模かつ安定的な魚類養殖が可能となった。しかし、近年の気候変動による海洋環境の変化に伴い、養殖に適した場所の選定が課題となっている。この課題に対応するため、衛星観測データや短波海洋レーダーなどの海洋空間情報を活用し、養殖適地を判別して現場での意思決定や合意形成に資するシステムの研究開発を実施した。

## 背景・目的 養殖業成長産業化支援と安定的な食料生産への貢献

(世界) 養殖業生産量が大幅に増加、全体の約半分が養殖業生産、沖合化大規模化  
(国内) 「改正漁業法」、「養殖業成長産業化総合戦略」、養殖業の振興に向け本格的な取り組み

衛星リモートセンシングと短波海洋レーダーを用いて養殖適地の探索を支援するサービスを構築。国内養殖業の成長産業化を支援し、同時に世界の安定的な食料生産に貢献。

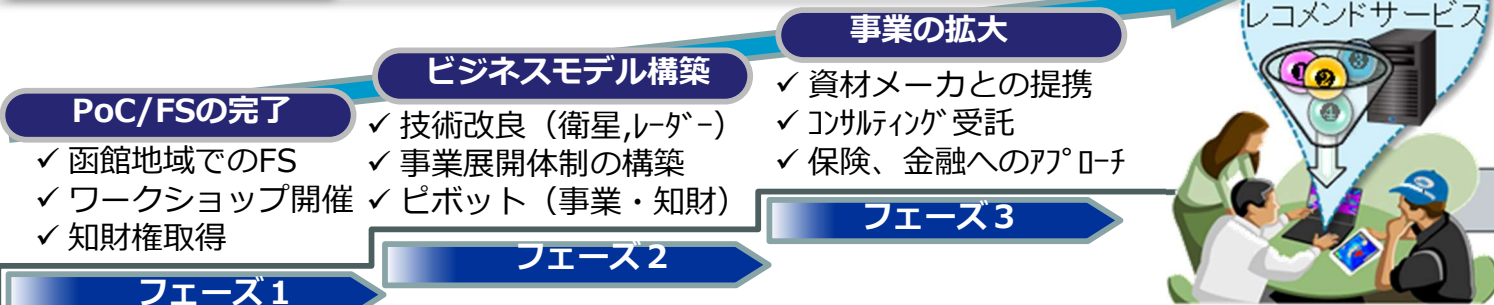
## 研究成果 AHP (Analytic Hierarchy Process) に基づく適地の判別

沖合養殖適地の選定に必要な下記の要素をシステム統合した。

- 海洋リモートセンシングデータの収集システム
- 養殖適地評価のための多面的評価基準の設定機能
- AHPを用いた評価とGISを利用した視覚的マッピング機能



## 今後の展開方向 事業化に向けたマイルストーン



<代表機関概要> 株式会社 グリーン&ライフ・イノベーション

■ HP : <https://glinnovation.jp/>

■ 所在地 : 函館市弁天町 20 番 5 号 函館市国際水産・海洋総合研究センター 103

■ 連絡先 : info[アット]glinnovation.jp 担当 : 高橋 ([アット]を@に置き換えてください。) 2024年8月31日時点